

環境問題への取組について。デコ活とは、資料2にありますように、2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向け、国民自らが自身の行動を変え、ライフスタイルの転換をしていくよう後押しするための国民運動です。

2022年10月に発足しましたが、資料2の3ページ目を見ていただければ分かるように、まだまだ国民全体への認知度が広がっていないのが現状です。この運動は、脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像を紹介するために、国、自治体、企業、各種団体が連携して、市民の皆さんの脱炭素推進行動への参加意識を高めていこうとするものです。

資料2の3ページにあるように、2022年3月の博報堂調査第2回生活者の脱炭素意識&アクション調査によると、9割の方々が脱炭素という用語を認知している一方で、そのために何をしたらよいか分からないなど、具体的行動に結びついていない状況にあるとあります。新居浜市の場合も、市民全体の感覚としては、博報堂の調査結果とそう遠くはないような数値が出るように思われます。

2030年の温室効果ガス削減目標に向けた新居浜市の具体的なアクションとして、従来から新居浜市が地球環境問題の活動を推進するために組織として応援しているにはま環境市民会議や新居浜市地球高温化対策地域協議会の会員の方々に協力と参加を呼びかけ、新居浜市自身も積極的に参画し、行動を起こすのがよいと思いますが、新居浜市のデコ活への参画の現況と今後の対応についてのお考えをお聞かせください。

私たちが住む新居浜は、明治の時代から木を植えてきた町です。住友2代総理事、伊庭貞剛の語った、別子全山を旧のあをあをとした姿にして、之を大自然にかへさねばならないの言葉どおりに、山林保護の方針の下、別子銅山では100年以上前の明治時代に元禄からの銅の採掘、製錬のため荒廃し、はげ山になった別子の山々での植林活動を、年間100万本を超える規模で進めてきました。その植林の現場を支えたのが、新居浜に住む私たちの祖父母であり、父、母、新居浜市民だと自負しております。

先ほど質問したことと繰り返すにはなりますが、脱炭素、CO₂削減は気候変動対策、温暖化防止であります。環境対策先進地、新居浜として、デコ活を新居浜市の環境施策の柱の一つとして取り上げていくべきかと思いますが、古川市長のお考えをお聞かせください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 環境問題への取組についてお答えいたします。

木を植えてきた町についてでございます。

本市は、環境問題を克服してきた別子銅山の歴史から学び、先人たちから受け継いだかけがえのない豊かな自然を未来へと継承していかなければならない責務があると認識しております。

この責任を果たすためには、地球温暖化対策が極めて重要であり、持続可能な社会の実現に向けた取組が求められております。

特に、2050年に向けたカーボンニュートラルの実現は、地球温暖化の進行を抑制するための重要な課題で

あり、CO₂削減に向けた各種施策に取り組んでおります。具体的には、公共施設への太陽光発電設備の導入やLED照明への更新などを順次進めているところでございます。

また、脱炭素社会の実現には、市民一人一人の意識と行動の変化が不可欠であり、そのためには日常生活の中で実現可能な取組を広めることが重要でございます。ライフスタイルの転換として、食品ロスの削減やエコグッズの普及を進めるデコ活アクションを、まずは市職員が積極的に取り組むとともに、市民の皆様にも広く周知することにより、地域全体での取組の拡大を図ってまいります。

地球温暖化対策には、市民全体の継続的な取組が重要であると考えておりますので、市といたしましても、歴史を未来につなぐあかがねのまちゼロカーボンシティにはまを目指して、市域一体となって環境意識の醸成を図ってまいります。

○議長（田窪秀道） 近藤市民環境部環境エネルギー局長。

○市民環境部環境エネルギー局長（近藤淳司）（登壇） デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）についてお答えいたします。

本市のデコ活への参画の現況につきましては、現時点ではデコ活への参画の表明やデコ活宣言は行っておりませんが、2050年のカーボンニュートラルに向け、国民全体で機運を盛り上げる活動であると認識いたしております。

これまで国の地球温暖化対策の方針に沿って、2021年にゼロカーボンシティ宣言、2022年に気候非常事態宣言を行ってまいりました。

また、第3次にはま環境プランにおいて施策、持続可能なまちづくり、環境意識向上の普及啓発においてデコ活も含めた市域一体での取組が重要であることを明記しているところです。

今後におきましても、脱炭素の意識づくりの一環として、ホームページやSNS、ロビー展などの機会を通じて、より一層の周知啓発のため、継続的に情報発信するとともに、新居浜市地球高温化対策地域協議会やにはま環境市民会議など、環境関連団体の皆様にも御協力いただき、デコ活への参画について、前向きに検討してまいります。

○議長（田窪秀道） 再質問はありますか。大條雅久議員。

○23番（大條雅久）（登壇） 資料を見ていただければお分かりのとおり、デコ活とって特別変わったことをやろうというわけではない。誰もがやるクールチョイスとかフードロスをなくそうという、ささいな日常生活の活動を継続してこつこつとみんなでやろうというだけです。特別なものは要らないと思いますが、継続させるためには、古川市長をはじめ、トップが常にそれを口にして継続をうたう、私たちが周りの方に呼びかけることだと私も思います。

ですから、改めて宣言してくれとお願いするのではなく、今までやってきたことをきちっと続けていきたいですが、続けられていないという反省もみんなで持つべきだという思いで質問させていただきました。

町にはそれぞれの歴史があります。歴史を知ることはその町を知るだけでなく、好きになったり誇りに思えるようになるきっかけになった

りします。木を植えた町、新居浜の歴史をつくられた伊庭貞剛の功績は、田中正造の明治34年第15回帝国議会の演説にもあります。広瀬支配人時代も植林は続けられていましたが、その数が100万本を超えるのは、伊庭支配人になった後の明治30年以降です。明治32年1月に、伊庭は別子銅山を後にして全てを鈴木馬左也に託して大阪本店に帰ります。五ヶ年の跡見返れば雪の山、まさしく別子山の……。 (ブザー鳴る)